

農学生命科学部

第14回 研究推進セミナー

【第22回 発生・生殖生物学研究室コロキウム 共催】

【新学術領域研究 配偶子産生制御 共催】

*In vitro*で卵を産生する技術の開発 ～マウス新生仔卵巢の体外培養法の確立～

演者：諸白 家奈子 先生

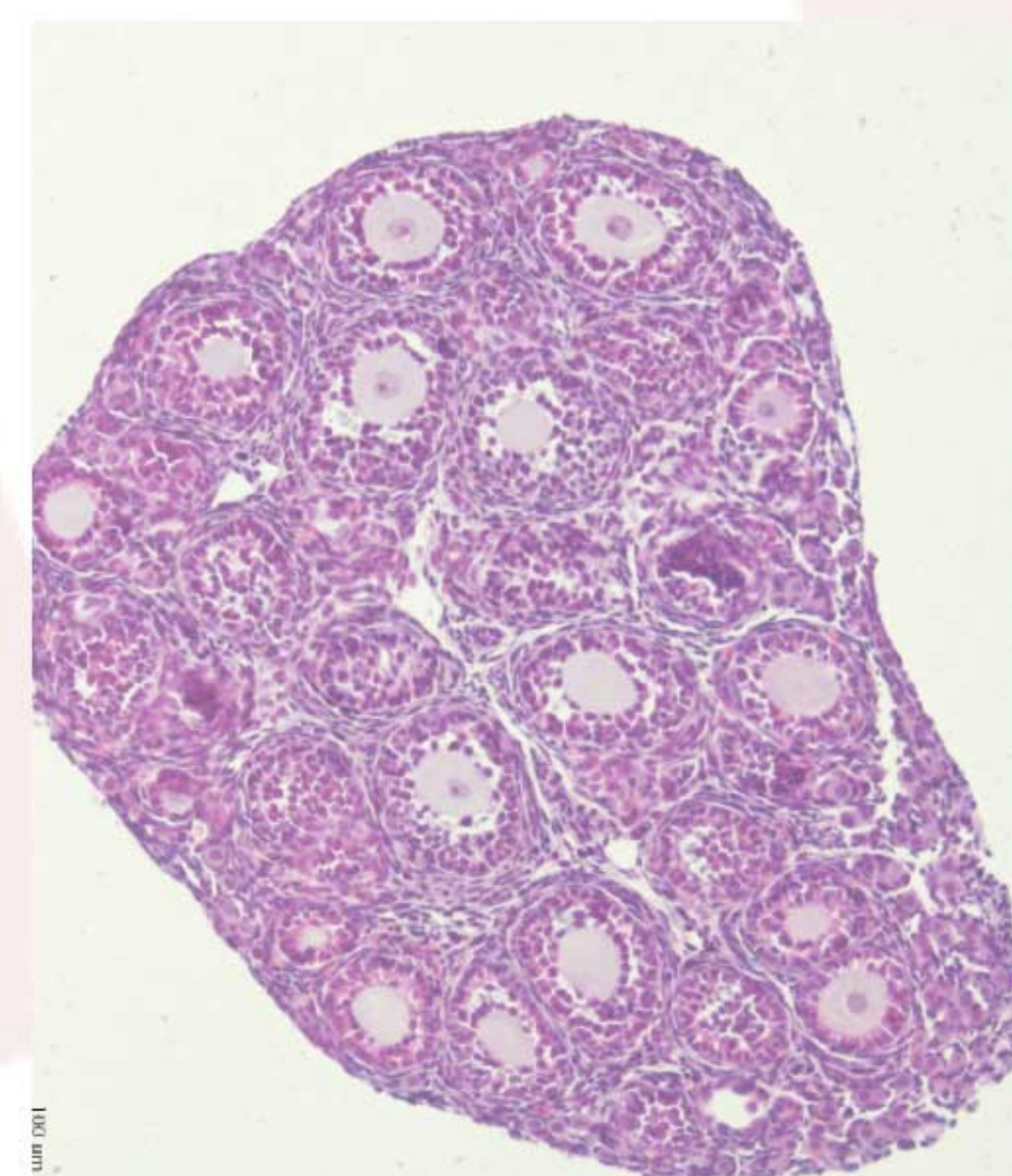
東京農業大学 バイオサイエンス学科

動物発生工学研究室 博士研究員

日時：平成28年1月7日（木）

17:40～19:10

場所：弘前大学農学生命科学部403室



哺乳動物の卵巢内には、未熟な卵母細胞が卵胞という袋状の構造に包まれた状態で数千から数万個存在し、卵胞が発育にするにしたがい卵母細胞が成長し排卵します。しかしながら、最終的に排卵するものは未熟な卵母細胞のうちの1%未満であり、大部分の卵母細胞は発育の過程で退行することが知られています。この未熟な卵母細胞を有効利用することができれば、絶滅危惧種や遺伝的に有用な動物の増産や効率的な繁殖への利用が期待できます。これまで、哺乳動物の卵巢内に存在する未熟な卵母細胞を体外で発育させる培養系の開発が試みられてきましたが、最も未熟な卵胞である原始卵胞から産仔を獲得した報告はほとんどありませんでした。しかし、我々が改良した培養系により多数の産仔を獲得することに成功しました。

本セミナーでは、哺乳動物の卵母細胞形成過程について説明するとともに、我々が現在行っている幼若マウス卵巢を用いた体外での長期培養系の開発について紹介します。

主催：農学生命科学部生物学科 発生・生殖生物学研究室

小林一也（内線3587 kobkyram@hirosaki-u.ac.jp）

共催：研究推進委員会 学部後援会